研修報告書

焼津市議会議長　様

議員氏名　　秋山博子

平成 31 年 3 月 27 日　下記のことについて、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	議員のための都市計画：東京
研修の目的	建設経済常任委員会委員としてまず必要と思われる都市計画の基本的な仕組みを学び委員会審査に備える（主催／地方議会総合研究所　講師／筑波大学教授 谷口守氏）

所　感

都市に関わるさまざまな課題を把握し、より良い将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす人々に対して働きかけを行う行為が「都市計画」とされている。全国の地方都市では人口減少社会･低炭素化社会への取り組みとしてコンパクトシティ化へと動き始めている。講師は「既存の制度をなぞるだけでは、現在の激しい社会変化の中で、本来行うべき都市計画の改革が実施できなくなっていることを、まず認識する必要がある」という。都市計画に対する考え方をどのように変えていく必要があるのか､その手がかりをどう掴んでいくのか、ヒントをいただいた。（１）社会資本の維持管理にかかるコストについて市民の意識改革が必要（２）京都や奈良などは 1000 年以上も前にきちんとプランニングされ、後世に評価される都市になっている。今 1000 年後の子孫に愛されるような都市空間づくりを行っているか（３）交通計画も都市計画の一つであるが、社会の全体的な厚生を考慮しなければならない（４）計画は迅速に実行されなければならないと同時に、状況に応じて変更される柔軟性も備えていなければならない（５）英国で都市計画と農村計画を合体させて議論しているように、問題意識や対処法が共有できることは少なくない。環境・建設・経済・福祉・財政など、それぞれが縦割りで視野や解決策が狭くならないよう、関係者の配慮が求められる。など、計画の捉え方を再考するために幅広く学ぶことができた。

今後の参考となる事項

（１）都市計画をハードで動かしがたいものと捉えて「思考停止」するのではなく、社会の変化に合わせて柔軟に変更されるものと受け止め考えていくことが必要。

（２）コンパクトシティ化は丁寧に進めることが求められるが、まず、社会資本の維持にかかるコスト負担についての中長期計画を市民にわかりやすく提示することも不可欠。

（３）公園整備や開発事業などには地域ワークショップを開催することが当たり前になってきた。意見を交わす過程で参加者がいろいろなことに気づくプロセスがあり意味がある。今後も大いに活用すべき。

＊上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

＊参考資料等がある場合は、添付してください。